

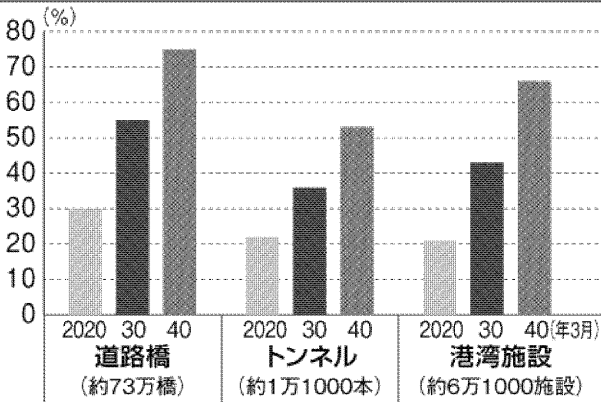
# 川金、免震支承を増産

## 橋梁向け、茨城に新棟

【さいたま】川金ホールディングス（HD、埼玉県川口市、鈴木信吉社長）は、橋梁を支える橋梁向け免震支承の新生産棟を建設する。子会社の茨城

建設するのは川金ホールディングス（埼玉県川口市）。土木建築用機材の設計、製造などを手がける。茨城工場に設ける新棟の延べ床面積は、約1600平方メートルとみられる。免震支承は高い減衰性能を備えており、地震発生時に地震エネルギーを吸収して構造物の揺れを抑える役割を担う。同社は特にゴム支承を多く製造しており、橋の上部構造（橋桁）と下部構造（橋脚）の接合部などに多く設置されている（イメージ）

建設後50年以上経過する社会資本の割合



社会インフラの老朽化が進み、修繕ニーズが高まっている（イメージ）

国内では橋梁やトンネルなど社会インフラの経年劣化が懸念されており、国も老朽化した施設の定期点検を義務付けるなど対策を急ぐ。経年劣化を放置すれば地震などを起因に橋梁の倒壊など大きな事故が発生し、人身被害に加えて物流の停滞など経済的な損失が生じかねないためだ。特に高速道路の橋梁は経年劣化だけでなく、車両重量の増加や大型車の交通量増加など複合的な要因で老朽化が進んでいる。NEC各社は「高速道路を占める計画だ。路リニューアルプロジェクト」として急ピッチで補修・補強を実施。路面の舗装や改装のほか、免震支承も同時に取り換えることがあり、同社の免震支承の引き合いが強まっている。

川金HDの売上高は主力の橋梁支承など土木建築機材が5割、祖業の鋳物など素材材が3割、油圧シリンダーや射出成形機など産業機械が2割で構成する。27年3月期売上高は現状比約25%増の約500億円に伸び、うち土木建築機材が6割を占める計画だ。